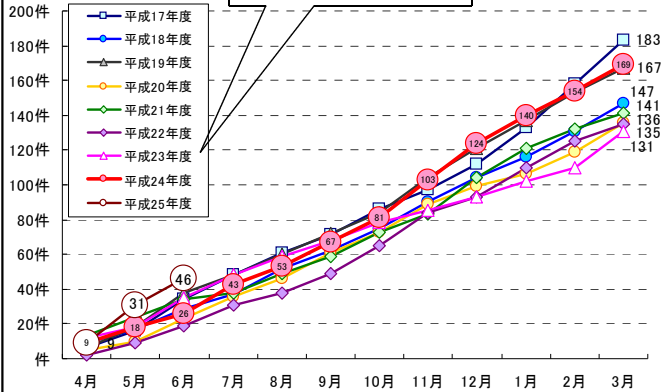


## 4~6月事故件数が昨年度を大幅に上回っています！

### 工事事務発生件数（もらい事故除く）

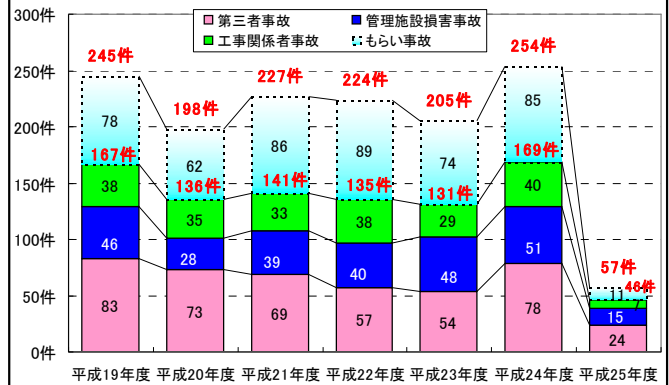
●平成25年4～6月の事故発生件数は46件で、昨年の同時期（26件）を大きく上回り、過去最悪のペースとなっています。

昨年を大幅に上回る  
過去最悪のペース



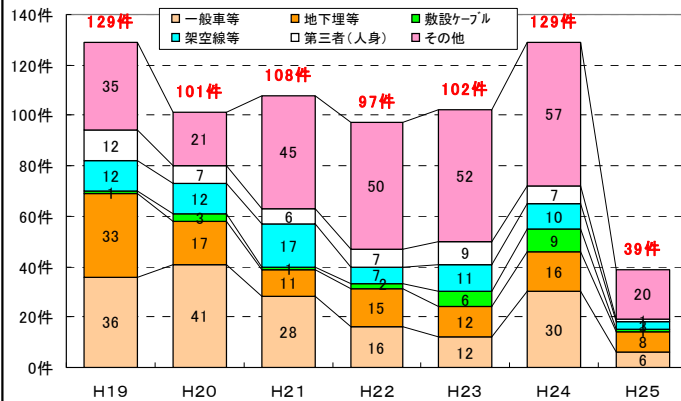
### 事故分類別工事等事故件数

●事故分類別で見ると、「管理施設事故（15件）」と「第三者事故（24件）」の、いわゆる公衆災害が大幅に増えています。



### 公衆災害事故件数

●公衆災害の内訳を見ると、「一般車等（交通事故）」「地下埋設物」の事故が特に増えています。交通事故については安運転教育を強化し事故防止に努めるようお願いします。



### 事故分類別工事等事故件数

	25年度	24年度
工事関係者事故	7	6
管理施設事故	15	8
第三者事故	24	12

### 公衆災害事故件数

	25年度	24年度
一般車等	6	2
地下埋設物	8	2
埋設ケーブル	1	2
架空線等	3	0
第三者(人身)	1	4
その他	20	10

### 水道管破損事故多発！（埋設物事故を安易に考えていませんか！？）

地下埋設物の事故（8件）のうち6件は水道管の破損であるため、埋設物の情報がある現場では必ず右記の3箇条を守り、水道破損事故の防止に努めるようお願いします。

4月以降、水道管破損事故が多発していますが、

中でも試掘等で埋設管を確認しているにもかかわらず、**明示せずに埋戻し**してしまったために後の掘削作業で破損した例や、同じく**明示せずに埋戻し**、さらにその**情報を他の作業員に伝えていなかった**ために事故が起きたケースが見受けられます。（**何のために試掘を行うのか、作業員レベルまでしっかり理解しておく必要があります**）また、埋設管情報があり試掘が必要な箇所にもかかわらずバックホウで掘削していたために管を破損したという事故も後を絶ちません。

（**試掘はバックホウを使用しないこと。実際の埋設位置・深さが図面と異なるのはよくあることです**）

埋設管の破損事故は、工事に協力頂いている周辺住民の生活に直接不便をかけるものであり、幹線水道などが破損すればその影響は甚大なものになるという認識を現場で共有し、安易に「**工程優先・安全軽視**」とならないよう元請けから強力に指導することが求められます。

### 水道管破損防止3箇条

- ◎水道管理者と立会を行い結果は書面で残す
- ◎試掘はバックホウを使用しない（人力掘削）
- ◎埋設位置・深さは図面と異なることがある



# 熱中症に注意！

8月12日現在、10件の熱中症が報告されています



● 昨年は、1年間で6件の報告でしたが、今年には既に10件報告されています。いずれも、すぐに病院に連れて行くなど、処置が適切だったため大事には至っていませんが、放っておくと死亡することもあるので、特に右記の症状が見られる場合は早急に医療機関での受診をお願いします。

## ～ 熱中症の症状 ～

下記の症状を確認したら、躊躇せずに病院で診察を受けましょう

**熱射病**……体温上昇のため中枢機能に異常を生じた状態で、**意識障害**

**熱けいれん**・大量にあせをかき、水だけを補給して血液中の塩分濃度が低下した時に、足、腕、腹部の筋肉に痛みを伴った**けいれん**がおこる。

**熱虚脱**……皮膚血管の拡張による循環器不全で脈が速くて弱く、呼吸回数が増加、顔面蒼白、血圧低下、一過性の**意識喪失**などがおこる。

## 熱中症が予想される現場における防止対策等

熱中症の防止対策等		実施例	関係法令等	
作業環境管理状況	休憩施設等の整備	・冷房を備えた休憩施設、身体を冷やす設備、物品等	安衛法第71条の二	
	作業環境の改善	・作業場所に直射日光の遮蔽、照返の遮蔽、通風・冷房の施設等		
	水分塩分摂取の設備	・水分・塩分補給を行える施設等	安衛則第617条の二	
健康状況管理	健康診断(就業の措置の有無)	健康診断の有無と、その結果に基づく就業の措置	実施する	・労働安全衛生規則第43条、第44条及び第45条 ・労働安全衛生法第66条の4及び第66条の5
安全状況教育	当日の注意喚起	作業員及び作業を管理する者に対して、あらかじめ熱中症に関する労働安全教育的を実施	・朝礼時に水分、塩分、休憩をこまめに取る様、指導。	—
(参考)温度湿度の管理、熱中症指数・WBGT値の周知			・朝礼時、打合せ時にWBGT値を周知(当日WBGT値:23.6℃)	※厚労省等関係機関が推奨

# 草刈り作業時の事故に注意！

## 飛び石事故が2件発生

● 河川維持作業でハンドガイド式草刈機を使用していたところ、草刈機側面のカバーの無い部分から石が飛び、隣接する家屋の窓ガラスを割った。(図1)

【対策】草刈機側面にカバーを設置し、また不陸部分は低速走行することで飛び石を防止する。

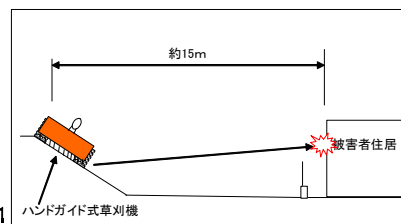


図1

● 道路維持作業で肩掛式草刈機を使用していたところ、飛び石が防護版を超えて現道を走行中の観光バスに当たり、窓ガラスを破損した。(図2)

【対策】

飛び石防護版を大きいものに改良する。

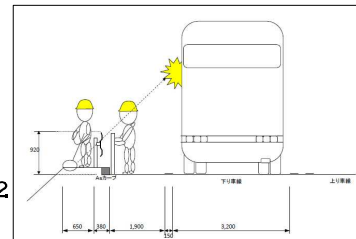


図2

## 河川維持作業で除草剤を散布

● 河川維持作業で、作業前の準備として除草剤を散布し、地元からの苦情で発覚するという事故が発生しています。当該作業箇所は草丈が高く、水路や石垣の位置確認が困難なため、除草剤を散布して作業時の安全性を確保する目的で限定的に行ったものですが、限定的であったも除草剤の使用はできません。

今回の事案では幸い水質事故等は起きていませんが、元請けは下請けに対し「除草工における禁止事項」について指導するようお願いいたします。